
もも缶、鮭缶、みかん缶

ロスタイム

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

もも缶、鮭缶、みかん缶

【Nコード】

N4492D

【作者名】

ロスタイム

【あらすじ】

他愛もない物に、喜びを感じられたひと昔前、今現在、つらさ、苦しみがあふれている時代、食、物があふれ帰り、何に、喜びを求めていけばいいのだろう。

世の中グルメを自負する輩があふれ帰り、その手の食を評価する雑誌、グルメマップなるものが多数出版されていて、先日も海外のタイヤメーカー監修による店をランク付けするような、グルメ冊子が出版されたが、本当に感動を覚え、満足し、一生忘れられなくなるようなおいしい物なのであるか？人それぞれ、価値観、生活感、食感のちがいがから評価の分かれるのも理解できるが、私のような庶民には、一ヶ月に一回にせよ足が遠く及ばない。きっと店の敷居、格調の高さ、まわりのハイソサエティーな常連に気圧され、まともに味わうことなどできず、店を後にすることが容易に想像することができる。そんな貧乏性な私にも、格安で、

「ああ！これはおいしい」と思う物を延々と幼少気より持っているそれは、ただの缶詰である。その中でも、もも缶、鮭感、みかん感はなくだんにだいこうぶつである。

もも缶、風邪を引いて熱を出した時、枕元でお袋が食べさせてくれた、もものしゃりしゃりした食感、甘い、甘いシロップをすすり、子供ながらに熱が下がってしまう、風邪が治ってしまうんだと、少し複雑な思いを持っていた。鮭缶には、父親の思い出がある。酒飲みの父親だったので、テーブルには何かしら酒の肴がならんでいたが、自分の好む物がないと、必ず鮭缶をあけ、缶から直に橋でほじくるように食べていた。そんなある日、鮭缶の中骨を、

「いいから、食べ、食ってみろ」と私の口の中に、それを放り込んできた。その言葉に黙って、その得体の知れない物を奥歯でそつとかんでみた。子供にとつて、未だ味わったことのない、食感、なんておいしい物なのだろうと、陶醉した。未だに鮭缶も好きだが、中骨の缶ずめの方が好きになってしまった。 みか

ん缶、夏に冷蔵庫で凍らせて、兄弟で争い、むさぼり食べた。こんな他愛もないような缶詰一つ、一つに、幼少期の家族との思い出が

つまり、未だに忘れることのできない逸品である。今私は、理由があつて両親とあうことができないが、家内とスーパーに買い物に行き缶詰を見えると家族との思い出がよみがえってくる。

飽食の時代、私の子供たちはどんな物に思い出を見つけだしていくのだろう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4492d/>

もも缶、鮭缶、みかん缶

2010年11月20日03時46分発行